

## キルギス

### 主要データ

国名〔英名〕	キルギス共和国〔Kyrgyz Republic〕
面積(km <sup>2</sup> )	199,951
海岸線延長(km)	0
人口(百万人)	5.4
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	27.2
GDP(10億US\$)	5,050
一人当たりGDP(US\$)	951
一人当たり銅使用量(kg/人)	NA
主要鉱産物：鉱石(t)	金:6.6、アンチモン:480、タングステン:100
主要鉱産物：地金	NA
鉱業管轄官庁	産業・エネルギー・燃料資源省 国家地質・鉱物資源庁
鉱業関連政府機関	無
鉱業法	地下資源法
ロイヤルティ	3.0～5.0%(銅、鉛、亜鉛:3.0%)
外資法	外国投資法
環境規制法(環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	NA
鉱業公社	Kyrgyzaltyn
鉱業活動中の民間企業	Centerra Gold、KazakhGold、UrAsia Energy、Chaarat Gold
近年の鉱業関連問題(資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	金、タングステンなどの分野ではロシア、中国、カザフスタンの投資が活発化しつつある。また、外国企業によるウラン探鉱、既存プロジェクトの買収等ウランへの投資が活発化しつつある。
<b>2008年のトピックス</b>	2006年以降のキルギス政府と外国企業との主な係争である Kumtor 金鉱山を擁する Centerra Gold 社(加)との1件は2009年に同社の権益の一部を政府に移譲することにより一応の決着を見た。しかし依然として同国の資源ナショナリズムの高まりは無視できない状況にあり今後も予断を許さない状況である。

### 1. 鉱業一般概況

キルギスは、ロシア、ウズベキスタンに次いで、CIS 諸国中第3位の産金国であり、主な金鉱床は、既に生産中の Kumtor と Makai 及び開発準備中の Jerooy と Taldy-Bulak である。代表的な金山である Kumtor は、キルギス最大で、同国 GDP の4%以上を占めていたが、2007年3月に政府がその権益の正当性につき疑義を表明したため、一時生産が停止した。

キルギスは、錫、タングステン資源も豊富であり、代表的な鉱床は、Saryjaz-Akshyirak、

Troudovoye、Atjailo などであり、いずれも東部の Issyk-Kul 地域に集中している。また、水銀、アンチモンが生産されている。

その他にモリブデン、ベリリウム、タンタル、ニオブなどのポテンシャルが確認されている。

金、タングステンについてはロシア、中国、カザフスタンの投資が活発化しつつある。また、外国企業によるウラン探鉱、既存プロジェクトの買収等ウランへの投資が活発化しつつある。

キルギスは、国営鉱山開発公社“Kyrgyzaltyn”を有しており、自社あるいは

外国企業との JV で探鉱開発を行っているが、外国企業のみで探鉱・開発を行うことも可能である。

また、同国は他の中央アジア諸国と比して水資源に恵まれ、水力発電開発も進んでおり、鉱山開発にこの電力が活用可能である。

## 2. 鉱業政策の主な動き

2006 年以降、キルギス政府が資産国有化の傾向を強める中、金鉱山開発権益を巡り、2 つの係争(Oxus Mining 社(英)、Centerra Gold 社(加))が起こった。

Oxus Mining 社(英)との JV で開発を行っていたキルギス第 2 の Jerooy 金鉱床開発については、英国政府も関与する国際的係争となったが、結局、Oxus 社が撤退し、その権益を購入した KazakhGold 社とキルギス政府の JV である JerooAltyn CJSC 社が、係争に要した費用を Oxus 社に補償することで 2008 年 6 月、最終的

な決着を見た。

Centerra 社の Kumtor 鉱山開発に関しては、2007 年 3 月に政府は Cameco 社(加)から引き継いだ Centerra 社の権益の有効性に疑義を表明し、また過去の操業について税金の未納の可能性があると、キルギス裁判所も同社のライセンスを剥奪する判決を出す一方、同社は本件の国際仲裁を求め、一時生産停止するなど混乱していた。2009 年 5 月には政府と Centerra 社は、政府が 1 年の疑義と遅延に対する補償を支払うことで一旦の合意を見たが、依然として政府は Kumtor 鉱山の権益増加を狙っている状況は継続し、不安な状態は続いている。

キルギス政府は現在、外資による投資促進を目的として鉱業法を改正中で、税金及びロイヤルティの支払い以外の政府の権限は制限され、探鉱及び鉱業権の期間延長、減税などの改定が盛り込まれる見込みである。新鉱業法は 2008 年 7 月までに制定される予定であったが、現時点(2009 年 8 月)で状況に進展がない。

## 3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

### (1) 主要非鉄金属鉱石生産量

表 1. キルギスの金属鉱石生産量

(単位: t)

鉱種	2007 年	2008 年	2008/07 増減率(%)
金	9.4	17.3	84.0
アンチモン	480	480	0
水銀	250	250	0
タングステン	100	100	0

(出典: World Metal Statistics 2008)

### (2) 主要非鉄金属地金生産量

データなし

### (3) 主要非鉄金属消費量

データなし

### (4) 主要非鉄金属輸出生量

国内需要が殆ど無いため、国内生産量のほぼ全量が輸出されていると考えられる。

### (5) 主要非鉄金属輸入量

データなし

(6) 日本への輸出

表 2. キルギスの日本への精鉱 / 地金輸出量

(単位：t)

鉱種	2007年	2008年	増減率(%)
アンチモン地金	40	-	-
アルミニウム合金塊	-	489	-

(出典：日本貿易月表(2008.12)等)

4. 鉱山会社活動状況

(1) Centerra Gold 社(加)

モンゴルや米 NV 州に金山・探鉱プロジェクトなどを有する Cameco(加)からスピン・オフ(分社化)した企業であり、Kumtor 金山を保有する。同社は、モンゴルの Boroo 金山の開発プロジェクトも有する。前述のとおり、Kumtor 金山に関してキルギス政府と係争していたが、2009年5月に一応の決着を見ている。なお、鉱山権

益の構成の見直しが行われており、その過程で Centerra 社の権益は現時点で政府分が 33%、Cameco 社分が 37%、残り 29%はその他一般株主という比率になっている。2007年8月の暫定的合意案では、政府分は 29%、Cameco 社分が 41%であった。2008年1月より単純化された売上に対する一律 14%の課税率が適用されており、鉱山のキャッシュコストが 86 US\$/t の削減につながると見込まれている。

表 3. Centerra Gold 社の財務状況

(単位：百万 US\$)

	2007年	2008年	増減率(%)
売上高	373	636	70.5
営業利益	60	131	118.3
当期損益	-93	135	—
探鉱費	—	—	—

(出典：Annual report 2008)

表 4. Kumtor 鉱山の生産状況

(単位：千 t)

鉱種	2007年	2008年	増減率(%)
粗鉱	5,182	4,967	-4.1
金地金(t)	9.4	17.3	84.0

金地金生産増は品位の向上 (2.4g/t→3.9g/tによる)

(出典：Annual report 2008)

(2) Kyrgyzaltyn 公社

キルギス政府が100%所有する国営企業であり、Kumtor 金山を Centerra 社と共同経営している。同公社が所有する鉱山・プロジェクトは以下のとおりである。

① Akjilga：金、開発中 (Kyrgyzaltyn 100%)

② Ishtemberdy：金、開発中 (Kyrgyzaltyn 100%)

③ Jerooy：金、生産中 (Kyrgyzaltyn 33%、KazakhGold 33%)

④ Makmal：金、生産中 (Kyrgyzaltyn 100%)

⑤ Solton Sary：金、開発中 (Kyrgyzaltyn 50%、Newmont Mining社(米)50%)

- ⑥ Taldy Bulak : 金、FS 中 (Kyrgyzaltyn 33%、Samer Gold社(カザフ)67%)
- ⑦ Terek Sai: 金、生産中 (Kyrgyzaltyn 100%)
- ⑧ Trudovoye : 錫、タングステン、FS 中 (Kyrgyzaltyn 50%、Sarydzhaz Mineral Mining社(露)50%)

### (3) Khaidarkan 水銀コンビナート

キルギス政府が保有株 96.7%を所有する国营企業であり、大規模な Khaidarkan 鉱山(水銀が優勢)と Chonkoi 鉱山(螢石を随伴)の他、Zardobuka 鉱山を操業している。なお、キルギスは 2008 年に中国の 600t に次ぐ 250t を生産した。

### (4) 鉄鉱山開発

2009 年 4 月、美林資源集団有限公司(本社:中国北京市)はキルギス政府と国内の鉄鉱山資源の探鉱開発を正式に開始するための投資協議メモランダムに調印した。対象はキルギス東南部の Jietimu 鉄鉱山の鉱区で、Naryn 市の東約 50km の Naryn 川の北岸地区、予測資源量は 54 億 t、平均品位 Fe 43.4%。

## 5. 鉱山・製錬所状況

### (1) Kumtor 金鉱山(Issyk-Kul 州)

4. (1)参照。

### (2) Trudovoye 錫・タングステン鉱山(Issyk-Kul 州)、Kensu タングステン・プロジェクト

ロシアの Sarydzhaz Mineral Mining 社(オペレーター)と Kyrgyzaltyn 公社が権益を 50:50 で保有する JV Tianshanolovo 社が操業している。

また、Sarydzhaz Mineral Mining 社は、Kensu タングステン・プロジェクトも保有している。Kensu タングステン鉱床は、旧ソ連基準

の C1+C2 カテゴリー(JORC 規程の確定+推定埋蔵量に概ね該当)で、埋蔵量が 5.8 百万 t、WO<sub>3</sub> 含有量が約 3 万 t とされており、この鉱床の約 6 割が露天掘、残り 4 割が坑内掘で開発可能としている。

### (3) その他(探鉱開発動向など)

#### ① ウラン探鉱

国内でウラン探鉱を外国企業は Uranium One 社(豪、国内に 7 件の探鉱ライセンスを保有)、Eurasian Minerals 社(加、キルギス西部 Ottuk 地域で探鉱)、Monaro Mining 社(豪、キルギス南東部 Sogul で探鉱)、Nimrodel Resource 社(豪、キルギス西部 Batken 地域で探鉱)である。なお、Nimrodel 社は、2008 年 1 月、旧ソ連時代にウラン採掘が行われていた Mailuu-Suu 鉱山のテーリング・プロジェクトのライセンスも取得した。なお、このプロジェクトは鉱さい量 400 万 t、ウラン濃度最大 690ppm といわれている。

キルギスは 1960 年代後半に殆どのウラン鉱山が閉鎖されて以降、31 か所の廃さい堆積場が残され、近年は十分管理されていないことから、環境汚染に関する懸念が深刻化している。政府は本問題への資金支援を求めため、2008 年 1 月、国連 UNDP に協力を打診し、現在、IAEA・世銀などの協力も得て、廃さい堆積場の放射性廃棄物の評価プロジェクトを進めている。さらに、廃さいからのウラン回収事業について、民間企業も関心を示し始めており、問題解決策として期待される。

#### ② 金探鉱

100%外資による探鉱活動としては Chaarat Gold 社(英)が、2004 年からキルギス西部で金探査を行っている。



図 1. キルギスの主要鉱山

## 6. 我が国との関係

日本企業はキルギスに対して非鉄金属分野を含む直接投資を行っていない。

2008年11月に、バキエフ大統領が訪日し、福田総理との首脳会談を行った。

2008年の貿易実績は、輸出 35.8 億円（機械類及び輸送用機器、自動車、建設用・鉱山用機械）、輸入 1.1 億円（アルミニウム及び、同合

金）となっている。

## 7. その他トピックス

特になし。

(2009.8.11/本部 大久保 聡)